

大渡海

いごあいさつ

はじめまして、青年部第67回定期大会にて、青年部執行委員

はしもとたつき
に選出されました中央支部の橋本龍輝です。

この度、情宣部長として「大渡海」の編集を任せていただくことになりました。機関紙作成は初めてですので、至らない点もあるかと思いますが、各支部の青年の仲間たちに向けて学習会や様々な取り組みなどの交流記録をお知らせします。

是非お楽しみに！！



2022年 11月30日

主筆：本部青年部

編集：橋本龍輝

仲間たちの想いを乗せて
絆を繋いでいく。
それが大渡海です。



活動報告！！

2022年10月27日(木)

狭山情宣行動・上野駅

昨今、新型コロナウイルスの影響により活動が制限されていましたが、10月27日に上野駅前で情宣文の読み上げやビラ配りを行いました。中には、初めて情宣行動に参加された方もおり、ビラを受け取ってくれた人からは「狭山事件知ってるよ」や「頑張って」など、声を掛けてもらえた人もいました。

このような情勢下において、情宣行動を貫徹できたのは、参加してくれた皆様の協力があつてこそです！

これからも石川さんの無罪を勝ち取るためにも、皆様と共に頑張ります。



支部はちげえど仲間とは
繋がっているんだぜ！！



朝倉さん(千代田支部)

「今もあるんだ」と質問を受け、答えに困ったのでもっと勉強したいと思った。

ティッシュを配ってるだけでも、人によって目線が違うなと感じた。(初参加)

狭山情宣行動

参加者インタビュー



深野さん(蒲田支部)

狭山事件をもっと、皆さんに知ってもらっていい方向に向かっていきたい。(二回目の参加)

本部青年部からお二人に向けてメッセージ

お忙しい中、インタビューに協力して頂きありがとうございました。

これからも、石川さんの無罪を勝ち取れるように

2022年11月9日(水)

夫しき習合・下き早文司是トクトク

狭山事件とはなんなのか？を改めて知るた

めに、11月9日部落解放同盟中央本部に安田
聡さん(部落解放同盟中央狭山闘争本部事務局
次長)を講師として招いた学習会に筆者である
私は参加した。

講演を受ける中で、事件の経緯から始まり、
警察の不自然な捜査と行き過ぎた取り調べの
すべてを聞いた私は、彼らが喉から手が出るほ
ど、手柄が欲しいがゆえに石川さんを犯人に仕
立て上げたのではないかと考えた。これまでに
国家権力を行使した不当な捜査を行った警察
のやり方に、私は非常に違和感を覚えた…。

～学習会の様子～



《狭山事件概要》

1963年5月1日

埼玉県狭山市で女子高生Nさんが下校途中に行方不明になる被害者宅玄関ガラス戸に脅迫所が差し込まれているのが発見される(午後7時40分)

5月2日

深夜、脅迫所で指定された身代金受け渡し場所の(佐野屋) 周辺に警察官40人が張り込む。

5月4日

犯人は現れたが取り逃がすことになる。

Nさんの遺体が発見される

5月11日

死体発見現場から約120m離れた麦畑でスコップが発見され死体を埋めるのに使われたもので1 養豚場関係の見込み捜査が行われる。

5月16日

埼玉県警嘱託医による死体鑑定が出される。

犯人の血液型はB型。死因は絞殺。

5月23日

石川一雄(当時24歳)さんが別件で逮捕。

(石川さん宅の家宅捜査が行われ別日に筆跡鑑定がされる)

6月17日

石川さん保釈後に再逮捕。取り調べがはじまる

6月20日

石川さん3人共犯がいることを自白。6月23日に単独犯行と自白

(石川さん宅から被害者の万年筆発見。)

無能の集まりなのか？

二度も犯人を取り逃がす警察

当時、狭山事件が起こる2ヶ月前、*吉展よしのぶちゃん誘拐殺人事件で、犯人を取り逃がしていたことにより、警察は世論から大きな避難を浴びていました。

名誉挽回する意味でも、犯人を早急に逮捕し、一刻でも早く事件の解決が求められた。しかし、四十人も警察を張り込ませながら、身代金を取りに現れた犯人を見事に取り逃がすという、またも大失態を繰り返すという形になってしまいました。

(写真…殺害された被害者が埋められていた現場を捜索する捜査員)

*吉展ちゃん誘拐殺人事件とは

1963年に東京都台東区で起こった誘拐殺人事件です。

事件当時、3月31日一人で自宅前の公園に遊びに出掛けた村越むらこし吉展よしのぶちゃん(4歳)が誘拐された。4月6日犯人は、吉展ちゃんの母親を自宅近くに呼び出し、現金50万円(現在だと250万)を奪って逃走した。捜査は難航したが、1965年に犯人は逮捕され自供により、荒川区の墓地から吉展ちゃんの遺体が発見された。

石川さんの取り調べの様子



**密室にも関わらず
手錠・腰縄をつけられ
自白を強要された**

悲劇の始まり

捜査に行き詰っていた警察は、殺害現場付近の

部落青年に対する見込み捜査を集中し、かつてI養

豚場で働いていた石川一雄さんを別件で逮捕し、1

ヶ月もの間、留置所で取り調べを行った。

これが石川さんにとって悲劇の始まりだったのです。

警察に騙され **32** 年間獄中生活を送ることになった。

**警察は筆跡が似ているというだけで鑑識課の
鑑定を作り証拠品として提出していた？**

幼少時代、小学校へ満足に通うことが出来なかった

ことから石川さんは「**非識字者***」だったのです。

24 歳だった当時も読み書きができない状況の中で、果たして脅迫状を書くことができたのでしょうか？

その後の筆跡鑑定の結果を踏まえ、2018 年の裁判で 99.9% あきらかに別人が書いたものであると、科学的に証明されたのです。

石川さんの取り調べが始まり

『ウソの自白を強要』

『証拠のねつ造』

もはや何が真実で何が嘘なのか・・・

疑問の声は活動の意義

狭山事件の犯人として**無実**にもかかわらず**石川一**

雄さんが、不当に逮捕されてから、59年が経過しました。

今もなお、無実を訴え続ける石川さんの闘いに、私たちも連帯してきました。この取り組みに快く参加してくれる青年の仲間からの支援や、協力がある一方で「何年も訴え続けてるのに、無罪を勝ち取れないのだから参加しても無駄だと思う」など、この取り組みに対する『後ろ向きな意見』があることも、残念ながら事実として挙げられます。

狭山事件で石川さんが犯人にされてしまった最大の要因として『被差別部落出身』であることが挙げられます。

被差別部落出身であるがゆえに、部落差別を受けてきた石川一雄さんは警察にとって犯人に仕立て上げる格好の的となっていたのです。部落差別とは出生地や職業から生まれる『日本固有』の差別問題です。

では、なぜ私たちは狭山事件の取り組みに連帯するのでしょうか？

最大の理由として、私たち清掃労働者の先人たちは、部落差別をルーツとした職業差別を受けてきた歴史的背景があります。一昔前より少なくなったものの、現在も職業差別は無くならず、同じことが繰り返され続けています。差別問題を完全に無くすためには、過去の歴史を忘れず正しい知識を学習の中で蓄え、身近な仲間伝えていくことが大切です。

このような経験から、現在も同じように差別で苦し

んでいる人達に手を差し伸べることが、差別問題に連帯する『活動の意義』です。

部落差別による被害者である石川さんもその守るべき一人です。警察のいい加減な捜査と不当な逮捕は絶対に許されるものではなく、人権を度外視した冤罪事件は無くしていかなければなりません。

最後に、私個人の意見になってしまいますが「疑問に思う事」「疑問に感じる事」は悪いことではありません。何故なら疑問を感じた時に、はじめて学びと気づきが生まれるのです。

何事にも疑問を抱く気持ちを大切にし、これからも皆様と共に成長していきたいと思えます。

明日ある 青年たちよ 光あれ



永きに渡る差別の闘いに終止符を

部落差別により、永く苦しんできた被害者たちを助けるためにも差別という絶対に許されない悪しき風習を無くさねばなりません。

差別を無くすために、現在を生きる私たちにできることは何か？

差別反対の運動に取り組むだけではなく、次の世代のために学習する機会をつくり、伝えていくことが求められています。

差別無き 明るき未来 素敵かな

最後に、石川さんの闘いは「見えない手錠」を外すまでは終わりません。

今後の闘いの争点として、事実調べの実現が挙げられます。

この間、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、様々な取り組みが中止を余儀なくされていましたが、情宣行動や今回の学習会を開けたことは、青年部組織にとって大きな前進と言えます。

感染症に負けることなく、今後も差別問題に対する学習会や取り組みに参加し、石川さんの無罪を勝ち取れるように共に頑張りましょう。

実録

だいたい

大渡海 ってなに



私たち、ごみ収集作業員誕生の歴史を紐解くと江戸時代まで遡ります。

当時、ごみは川や堀に捨てるのが当たり前でしたが、ごみが氾濫した結果伝染病が流行り社会問題に発展しました。

幕府が永代島まで船でごみを運んで捨てることを義務付けたことで、はじめてごみ収集作業員(船員)が誕生したのです。大昔には、船を使ってごみを運んでいたなんて驚きですよね！？今では考えられません！！（現在でも一部、船での運搬あり）

私たち青年部の船員達を乗せて様々なことを学び、困難を乗り越えていくぞという思いを込めて機関紙のタイトルを「大渡海」とさせていただきました。

情宣部よりお願いがあります。
この大渡海をイメージした船の絵を
募集しております。
絵が下手上手い関係なく良かったら
本部宛に送ってくださいね。



本部青年部・情宣部長橋本宛
honbu@tokyoseisou.or.jp